

## ■2006年前半(1月～6月)活動報告■

### ユニセフ授業

6月14日(水)15日(木) 佐賀市立諸富北小学校



- ◆4年生(74名)の皆さんは総合学習的学習の時間に「動き出そう！世界の子どもたちのために」という単元名で学習しています。
- ◆14日は、「守ろう！子どものいのち」というテーマでユニセフ授業を行いました。U5MR(5歳未満児死亡率)が世界で一番高いシエラレオネと日本との保健・水・衛生などの違いに目を向けて、幼い命がたくさん失われている訳を知り、自分にできることを考えました。
- ◆「水運び」や「スペシャルドリンク作り」などの体験を通して、子どもたちは生き生きと学習をしました。
- ◆水運びをした子どもたちの声
  - ◎重たくて足が動かなくなった。手も痛くなった。水運びはたいへんだ。
  - ◎これを一日に何回も繰り返していたら、学校に行く時間がないだろうなあ。
  - ◎みんなと遊ぶ時間もないよね。
  - ◎安全な水がなくて困っている人がいることが分かった。



- ◆15日は、2組(37名)の道徳の学習「いのちを支えあう」で、ユニセフの支援活動にかかわる思いをGTとしてお話しました。

### ジャワ島地震緊急募金活動

6月10日(土) ジャスコ佐賀大和店

- ◆佐賀県支部では、ジャワ島地震被災地におけるユニセフ活動を支援するために緊急募金活動を行いました。
- ◆12名のボランティアは、『子どもたちの日常を取り戻すために《バック・トゥ・スクール》キャンペーンを行います。109円で3人分のノートと鉛筆をおくることができます。ご支援をお願いします。』と呼びかけました。
- ◆買物の足をとめてご協力くださるお客様から「お世話様ですね。」と、ねぎらいの言葉もいただきました。



- ◆中学2年生のボランティアは、「いろいろ な人に協力してもらって嬉しかった。」と活動後の感想を述べられました。
- ◆多くの皆様方からお預かりした募金は、ジャワ島地震で被災した子どもたちの緊急支援事業に使われます。

## 募金贈呈式

5月29日(月) 佐賀県教育会館

- ◆コープさが生活協同組合2006年度第16回通常総代会の席上において、日本ユニセフ協会佐賀県支部の太田記代子常務理事に「東ティモール指定募金」が贈呈されました。
- ◆コープさが生協では、九州の生協と一緒に2004年度から「東ティモールの女性と子どもたちのための識字教育能力開発プロジェクト」を支援しておられます。組合員の皆様から寄せられた438,381円もの募金は東ティモールの女性と子どもたちのために役立たせていただきます。ありがとうございました。



募金目録が贈呈されました



お礼の言葉を述べる  
太田記代子常務理事

## 使用済み切手の寄贈式

5月29日(月) 佐賀銀行本店



- ◆佐賀銀行では各支店の窓口に黄色の「思いやりBOX」を置き、書き損じはがきと使用済み切手の回収をお客様に呼びかけておられます。
- ◆寄せられたはがきと切手を三等分し、NPO法人地球市民の会・佐賀ユネスコ協会・日本ユニセフ協会佐賀県支部の三団体に寄贈されました。

## ユニセフグッズ頒布・パネル展・募金活動

5月28日(日) 鹿島市 ガタリンピック会場



募金、ありがとうございます



ボーイスカウト鹿島第一団の  
皆さん



全身泥んこの人間ムツゴロウ  
になった競技参加者に「肩  
を組もうか！」と激励され、  
「えっ!?!」



鹿島西部中学校ユニセフ  
協力グループの皆さん



熱心にパネルを見られる  
お客様

- ◆第22回鹿島ガタリンピックが鹿島市七浦海浜スポーツ公園で行われました。日本一干満差の大きい広大な有明海の干潟で、海外19カ国の皆さん、地域・近県からの皆さんを合わせて1,500人が全身泥まみれになって競技を楽しまれました。会場は25,000人の観客で賑わいました。
- ◆ボーイスカウト鹿島第一団の皆さん、鹿島西部中学校ユニセフグループの皆さんをはじめ、ボランティアの皆さんは、募金箱を抱えて会場をまわり、ユニセフ募金への協力を呼びかけました。
- ◆多くの皆さまの温かいお気持ちは、27日早朝に発生したジャワ島地震救援のために役立たせていただきます。ありがとうございました。

## ユニセフグッズの頒布&パネル展示

『青年の日』第12回チャリティーフェスティバル

愛を集めよう 愛を届けよう ~すべての人が幸せになるために~

5月21日(日) 唐津市虹の松原広場

- ◆「宇宙船地球号」の乗組員の一人ひとりとして、すべての命が尊ばれる世界を願い、松風さわやかな広場で、多くの市民の皆様のご参加のもと開催されました。
- ◆フェスティバルは、ユニセフ支援・地域社会福祉協議会への賛助・NPO/NGO団体支援のために実施され、バザーや佐賀県内外10のNPO/NGOの活動紹介、バンド演奏等があり賑わいました。
- ◆ユニセフのブースではグッズのご紹介やパネルの展示をし、お客様からはグッズやパネルについての質問、ボランティアについてのお尋ねなどがありました。
- ◆「青年の日」は、立正佼成会の青年部が地域社会や世界の平和を祈り、行動される日です。

## ユニセフチャリティーバザー

5月20日(土) 佐賀玉屋デパート南館西側アーケード



今年も、バザーのための品物を提供下さいましたソロブチミスト 佐賀西部の皆さん



仕分け・  
値付け作業



大盛況の  
バザー会場



- ◆会員さん、支援者の皆様からお預かりした沢山のバザー一品を仕分けしました。
- ◆お客様がお求めやすく、且つ、1円でも多くの募金にしたいと、日頃から鍛えた経済感覚で値段を付けていきました。
- ◆バザー一品を提供くださった皆様、仕分け、値付け、搬送、販売など色々な形でお手伝いくださったボランティアの皆様、そしてお買い上げくださったお客様、会場をご提供くださった玉屋デパート様、ありがとうございました。
- ◆お陰をもちまして、売上げ総額は16万7260円にもなり全額ユニセフ募金とさせていただきます。ありがとうございました。

## ユニセフグッズの頒布 & 募金活動

4月30日(日) 今右衛門古陶磁美術館前にて(有田陶器市会場)



- ◆第103回有田陶器市の2日目、各地から来られた18万人の人出で賑わう、今右衛門古陶磁美術館前でユニセフグッズの頒布や募金活動をしました。
- ◆元気な佐賀大学の学生さんたちが、リュックを背負い、帽子に手袋という定番の出で立ちで行き交うお客様に、募金への協力やユニセフグッズ頒布への協力を呼びかけました。



- ◆お客様からは「家を送ってくるユニセフのカタログを利用してグッズを求めているけど、皆さん頑張ってください。」と励ましていただいたり、「昨日テレビで子どもの兵士のことを言っていたから…」と募金協力をしていたりしました。

### ◆ボランティアの皆さんの声

- ・やってみると結構楽しかった。寄付をしてくれた人の笑顔が忘れられない。いい経験になった。
- ・初めは声を出すのが恥ずかしかったけどだんだん大きな声が出るようになって、達成感を味わえた。
- ・たくさんの募金が集まって嬉しい。今年だけではなく、佐賀大学にいる間、参加します。
- ・各人それぞれにボランティア希望で参加した知らない人たちだったが、今日の活動を通して仲間になれてよかった。
- ・たいへん貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。新しい視野がひろがったようです。これからも、この気持ちを忘れずにいたい。



## ユニセフグッズの頒布

4月28日(金)~4月30日(日) 緑のテラス・清水にて

- ◆オーナーご夫妻のご厚意により、上有田う~たん通りのご自宅の一隅にユニセフコーナーを設けていただきました。ありがとうございました。

## パネル展

4月23日(日) 佐賀市金立山いこいの広場

- ◆日米親善と平和を象徴するハナミズキの花を楽しみながら世界平和を願う「第21回花みずき茶会」においてパネル展を開催いたしました。

## イオン「幸せの黄色いレシート」キャンペーンから

4月8日(金) ジャスコ佐賀大和店

- ◆毎月11日のイオン・デーには、地域のボランティア団体などの名前と活動内容を書いた投函BOXがお店に置かれています。この日に、買い物をし、レジ精算時に受け取った黄色いレシートを応援したい団体の投函BOXへ入れると、購入金額合計の1%が地域ボランティア団体などに希望する品物で寄贈されます。
- ◆佐賀県支部でも、ユニセフのBOXを用意していただき、皆様にご支援をお願いしております。おかげさまで、4月8日(金)ジャスコ大和店にて、コピー用紙を寄贈されました。本当に何よりのお品です。事務局では、そのコピー用紙の代金分を募金とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

## 募金贈呈式

2006年3月16日(木) 佐賀市立嘉瀬小学校

- ◆嘉瀬小学校6年生の皆さんは、1学期の総合的学習の時間に『自分にできるボランティア～世界の子どもたちに目を向けて～』というテーマのもと、ユニセフの活動を通して世界の子どもたちの現状の一端を学び、自分にできるボランティアについて考えました。
- ◆その後、自分たちにできることとして、募金活動や書き損じはがき回収などに取り組むことを決め、全校の児童(280名)に「ユニセフ協力を一緒に手伝ってください。」と呼びかけました。
- ◆2月に行われた嘉瀬町と学校の共同イベント「嘉瀬春まつり」において、「わふう喫茶」・「フリー喫茶」・「お化けやしき」・「コリントゲーム」などのお店を出し、地域の人々や保護者の皆様、学校の先生方にユニセフ協力を広く訴えました。
- ◆卒業を前に、ユニセフを通して学んだことや募金活動のために取り組んだことをビデオにまとめ、1年間の活動の締めくくりとして募金を佐賀県支部に託されました。
- ◆子どもの声  
「世界の子どもたちのために自分にできることを考えてしたことを、たくさんの人々が協力してくれたのが嬉しかったです。」



## 募金贈呈式

2006年3月23日(木) 佐賀市立鍋島小学校ハートフル委員会

- ◆鍋島小学校5・6年生ハートフル委員会の皆さんは、例年、地域や世界に目を向けたボランティア活動に取り組んでおられます。
- ◆今年度はアルミ缶回収とユニセフ募金に取り組みました。アルミ缶は全校の皆さんや地域の皆さんに呼びかけて、毎週金曜日に回収しました。PTAの方や先生方が資源物回収センターへ運んでくださり、お金に換えました。また、校内でユニセフ募金への協力も呼びかけ多くの皆さんに協力していただきました。
- ◆一年間の活動を終えて、地域や鍋島小のお友だちの温かい思いやりがいっぱいまった募金を佐賀県支部に託されました。
- ◆ハートフル委員会委員長の話  
「鍋島の人たちや学校の友だち、先生たちがたくさん協力してくれていっぱい募金することができて嬉しいです。アルミ缶の回収はゴミを減らすことにもなるし、困っている子どもたちを助けることもできるので、これからもがんばっていきたいと思います。」



## ユニセフ授業

2006年3月14日(火) 大川市立大野島小学校6年生

- ◆6年生の皆さん(23名)は、社会科の時間に「ユニセフ」について学び、それを受けて「わたしと世界の12歳」というテーマで学習をしました。
- ◆何の不安もなく平和に毎日を過ごしている自分たちのくらしの向こう側に、全く知らなかった同世代の子どもたちのさまざまなくらしがあることを知りました。
- ◆同じ地球に生きる、共に未来を築いていく者として、自分には何ができるか、「はじめの一步」について考えました。

## JA佐賀県女性組織協議会

### [愛の募金]贈呈式

2006年3月14日(火) 佐賀新聞社

- ◆JA佐賀女性組織協議会では1979年の国際児童年を契機に毎年募金活動に取り組み、佐賀県内の児童福祉施設とユニセフに募金を贈られています。



## 募金贈呈式

2006年3月6日(月) 大木町立大溝小学校

- ◆大溝小学校6年生のみなさんは2学期に総合的学習の時間で「何かができる…自分たちにできるボランティア」の学習をしました。
- ◆世界の様々な困難な状況下にある子どもたちのことをユニセフを通して調べた後、「自分たちにできるボランティア」として全校のみなさん(398人)に手づくりポスターなどでユニセフ協力を呼びかけました。
- ◆年度末にあたり、全校のみなさんから集まったたくさんの募金や書き損じはがきなどを佐賀県支部に託されました。卒業式では「別れの言葉」の中にユニセフで学んだことを盛り込み、小学校を巣立たれます。

## 募金贈呈式

3月4日(土) 佐賀市北部児童センター

- ◆北部児童センターでは、2月18日に「子どもまつり」が催されました。
- ◆バザーでは、子どもたちが頑張って物品の販売を行いました。
- ◆今日は、その収益をユニセフに託してくださいました。



## ユニセフ出前講座

2006年2月21日(火) 柳川市社会教育集会所

- ◆ヒューマンライツなかやまの講座で「ユニセフと子どもの権利条約」のワークショップをしました。
- ◆参加された方は、ニジェル・モンゴル・リベリアのグループに分かれて、それぞれの国の子どもの事例と「子どもの権利条約」の条文を照らし合わせながら話し合いを深められました。
- ◆ユニセフは、「子どもの権利条約」の定める子どもの基本的人権の実現を使命としている、ということを理解していただきました。

## ユニセフのつどい

2006年2月4日(土) 佐賀市アバンセ

- ◆◆講演会「パキスタンの子どもたちと初等教育」 講師：小野康子さん(JICAデスク佐賀)

青年海外協力隊員としてパキスタンで学校改善プロジェクトに関わり、ユニセフパキスタン現地事務所との協働事業にも携わられた小野康子さんに、パキスタンのコミュニティにおける初等教育の現状をお話していただきました。



コミュニティスクールの様子を写真で見ながら話し合う。

ウルドゥ語での挨拶の紹介  
(留学生の皆さんがお手本をみせてくださいました。)

- ◆男女でいろんなことが違い、女の子が学校に行けないということでびっくりしました。これからは、たくさん子どもたちに学校へ行って欲しいなあと思いました。
- ◆「豊かさ」の質というものを問い直すきっかけとなりました。パキスタンの子どもたちは物質的には恵まれていないようですが、真剣に学んでいる姿が印象的で精神的な豊かさを感じました。
- ◆教育を受けたい、受けさせたい人が多い途上国の支援を、少しでもできればと考えます。

(次ページに続く)

◆◆ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」 ファシリテーター: 吉原真紀子(日本ユニセフ協会佐賀県支部運営委員)

「世界がもし100人の村だったら」(ワークショップ版)から「文字が読めないということ」と「大陸ごとに別れてみよう!」のシミュレーションをしました。

シミュレーション【1】大陸別に分かれてみよう



- ◆アジアは人口が多くてぎゅうぎゅう! 輪の中に入れられない人もいました。
- ◆ヨーロッパ(ロシアを含む)は少なく、オセアニアは一人もいない!

シミュレーション【2】文字が読めないということ



- ◆ウルドゥ語で書かれた「水」「毒」「薬」を見て、「薬はどれ?」と悩みました。
- ◆分からなかったけど勘で「薬」に当たった。よかった!
- ◆字を知らないと不安だということを体験できた。間違って「毒」を飲んでしまった。



◆参加者の感想から

世界の比率のアンバランスを、文章の中だけでなく、実際に体感し、分かりやすく理解させる取り組みと感じました。日本人の立場のみならず、いろいろな立場に立って世界を見ることにより、さまざまなことに気づき、考え、生き方にまでも影響を与えられるのではないかと思います。

◆◆ユニセフのつどいを終えて

日ごろからさまざまな形でユニセフをご支援いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて開催しました「ユニセフのつどい」ですが、参加された皆さまからは「初めて参加したが来てよかった。」「たくさん学ぶことがあってよかった。」「すごく楽しかった。ぜひまた参加したい。」「日本の発展も終戦後外国からの支援があったから。必要としているところには支援をしたい。」などの声をいただきました。ありがとうございました。



## ユニセフ授業

2006年2月10日(金) 杵島郡江北町立江北中学校

- ◆1年生(96名)は総合学習の時間に「平和」について学習しています。
- ◆今回は、「紛争と子どもたち、そしてユニセフ」というテーマでユニセフ授業を行いました。
- ◆「子どもの兵士」を中心に学習し、現在も戦火に巻き込まれている自分と同じ年頃の子どもたちがたくさんいることに目を向けていただき、「すべての子どもが平和の中に生きる権利がある」ことについて考えました。

## 募金贈呈式

2006年1月10日(火) 柳川市立大和小学校

- ◆大和小学校児童会では例年ユニセフ募金に取り組まれています。  
運営委員のみなさんは、ユニセフについて調べたことをパワーポイントでまとめ、朝のコミュニケーション活動の時間に全校のみなさん(130人)に発表し、募金協力を呼びかけました。
- ◆運営委員の頑張りをみて、他の5・6年生のみなさんも全員応援し、交代で12月12日から21日まで登校時に玄関に募金箱を持って立ちました。
- ◆募金協力してくれた人には、運営委員手づくりの「募金ありがとうカード」を渡して協力への感謝を表わしました。



児童会運営委員のみなさんが作られた「募金ありがとうカード」